

# 美川っ子

R4. 2. 22 文責 大達高弘

## 目には見えないものを大切に

島根県内における新型コロナウイルス感染症の拡大により、県内5市町の小中学校が1月下旬、約10日間の臨時休業となりました。主役である子どもたちのいない学校は静まり返り、当たり前だった毎日が当たり前ではなくなりました。

普段、校長室にいますと、いろいろな音が聞こえてきます。長い廊下を伝わって聞こえてくる元気いっぱいの1年生の声、2階の各教室で子どもたちが活動している音、発表の声や笑い声、歌声が聞こえてくることもあります。学校は、常に活気に満ち、聞く者の気持ち明るくする子どもたちの声や生活の音が響き渡る場所であり、静寂とはほど遠い場所です。そんな学校から子どもたちの声が消えた時間は、本当に寂しいものでした。ですので、2月1日に学校が再開し、子どもたちが戻ってきてくれた時には、ただただうれしくてたまりませんでした。学校再開後も、これまで以上に感染症への予防対策を徹底し、とにかく異学年間の接触機会を少なくするために様々な活動や交流を控えています。多くの制約の中での生活を子どもたちに強いるのは本当に申し訳ないと思いながら、今のこの現状では仕方ないんだと自分に言い聞かせ、悶々とした思いを抱きながら毎日過ごしています。

そんな中、2月8日の山陰中央新報朝刊の1面にある【羅針盤】というコーナーに目が留まりました。哲学者の内山節（うちやまたかし）さんが書かれた【コロナ禍の人間 助け合いを忘れるな】という論説が掲載されていました。私たち人間が生き延びるために手に入れてきた道具の発明と共同の文化。コロナ禍において道具（ワクチン・治療薬・病院・マスク）も大事だが、助け合い、協力し合うことを忘れてはいけないという内容でした。

この論説を読み、今のこのコロナ禍において、学校ができることは何だろうと考えました。私たちは、新型コロナウイルスという目には見えないものと闘いながら、先の予測がつかない今を生きています。相手が見えないから余計に恐怖を感じます。ですが、私たちは目には見えないものに支えられてもいると思います。それがやさしかったり、思いやりだったり、人との絆やつながりだったり、助け合いや共同だったり…。これまで当たり前だったことが当たり前でなくなり、多くの行動や活動が制限され、孤独を感じたり、生きづらさを感じたりしてしまうことがあるかもしれませんが、だからこそ、目には見えないもの【心のぬくもり・温かさ】をこれまで以上に大切にしたいと思っています。学校ができること、それは子どもたちが「自分は一人じゃない」「学校には自分の居場所がある」「誰かがいつも自分の存在に気付いてくれている」と感じることができるような安心感を与えることだと考えます。そういう美川小学校でありたいと思っています。

## 学校生活の様子

音楽の時間の合唱や管楽器の演奏は感染リスクが高いためなかなかできません。そこで、教室の中で、あまり声を出さずに、リズムに合わせて体を動かしたり、タブレットを使って楽器を演奏する際の指使いの練習をしたりします。



【音楽】

体育は2学年合同ではなく、各学年単独で行っています。なわとび集会に向け練習を繰り返します。お互いの間隔をしっかりと、マスクも着用したままで練習します。自分の目標に向かって一人一人、一生懸命頑張っています。



【体育】

外国語の時間です。ALTのマット先生もマスクをつけて指導します。本来なら発音の際の口の形や動きに気をつけるために口元をしっかりと見るのですが、今はそれも我慢です。しかし、子どもたちは楽しく、元気いっぱいに活動しています。



【外国語】

算数の時間のペア学習の様子です。マスク着用はもちろん、ペア活動の時間を必要最低限にし、声の大きさに気をつけたり、他のペアとの間隔をしっかりとったりするようにしています。学び合いの機会ではできる限り確保しながら学習を進めています。



【算数】

これまで縦割り班で行っていた掃除も、学年ごとで場所を分担して取り組んでいます。1階廊下は1年生が担当しています。冷たい水にも負けず、一生懸命にぞうきんがけをしてくれるおかげで、廊下はピカピカです。



【掃除】

あれもできない、これもできないと嘆くのではなく、どうすればできるのかを考えながらの毎日です。そんな中でも、毎日を前向きに、一生懸命に頑張る美川っ子の姿は輝き、まさに【み・か・わ】みんなが かがやく わたしたちの学校です。



## 避難訓練をしました

毎学期1回行う避難訓練。コロナ禍ではありましたが、感染防止対策をして2月2日（水）に実施しました。

今回は、今年度初めて休憩時間を想定しての避難訓練で

した。休憩時間ですから、子どもたちは思い思いの場所で、好きなことをしていました。そこに突然の非常ベルです。ベルが鳴ると同時にすぐに避難を始めた子どもが何人かいました。火災がどこで起こり、今どのような状況で、どこを通過して、どこに避難するのかという情報をもたずにやみくもに避難するのは混乱し、かえって危険です。非常時こそ落ち着いて、正しい情報を得ることが大切です。今回の訓練では、このあたりに課題が残りました。

しかし、避難開始の放送を聞いてからの行動は素晴らしかったです。教室にいた子どもたちは先生方の引率のもと整然と避難し、教室以外の場所にいた子どもたちは、自分の力で、安全に避難場所へ移動しました。避難開始の合図から避難完了までの所要時間は2分16秒。これは相当早いです。休憩時間を想定しての避難訓練としては素晴らしいものです。それだけ子どもたちが真剣に、そして本気で取り組んだ証拠です。反省点もありましたが、有意義な避難訓練になりました。



## 5年生：間伐体験

2月7日（月）、5年生が総合的な学習の時間と社会科の学習を兼ねて、間伐体験をしました。たばせ屋の小川泰昭様をはじめとする5名の皆様にお世話になりました。初めてのこぎりを使って木を切る子どももいましたが、実際に木を切る体験活動、森林にかかわる座学を通して、教室だけではできない深い学びをさせていただきました。ご指導くださった皆様、本当にありがとうございました。



### ～活動後の児童の感想～

○最初に「林業」と聞いたときは、林業ってどんなことをするんだろう、何のために林業があるんだろうと、何も知りませんでした。だけど、間伐体験に行ってみて、SDGsにかかわっていることや、三億年前前から木があったことなどがわかりました。実際に木を切ってみて、すごく力があることも知りました。

○間伐体験をして、林業であることが少し分かるようになりました。さらに、木の先祖や地球温暖化についても話してくださりありがとうございました。これからは、こまめに電気を消したりして、地球温暖化を少しでも止めていきたいです。

○木を倒すためにはチームワークが必要で、信頼があってこそできることだなあと感じました。

## 【朝活動】に見られた成長

美川小学校では毎週月曜日と水曜日の朝は職員朝礼があります。そのため、朝活動の時間（8時10分～25分）を子どもたちだけで過ごします。2月14日の朝、職員朝礼が早く終わったので、各学級の様子を見て回りました。



1～4年生は読書や自由ノート、自学に取り組んでいました。5年生は6年生を送る会の準備を、そして6年生はテストをしていました。どの教室もしんと静まり返り、近くに寄って耳を澄ましても教室の中から音が聞こえません。誰もいないのかと思ってドアをそっと開けて中を見ますと、誰もが黙ってやるべきことに集中して取り組んでいました。指導者がいなくても、やるべきことを自分達できちんとやる力、これは本物の力です。先生がいるから…、先生に叱られるから…では、本物とは言えません。自分で自分を律する：自律の心が身につくつある証拠です。

学校生活のいろいろな場面で子どもたちの成長を感じることがよくあります。特に大きな行事や活動の際にそれを感じることが多いのですが、この日のように、日常の学校生活の中で子どもたちが見せてくれる姿に、日々の小さな積み重ねの成果を感じることができると、本当に嬉しい気持ちになります。

たとえわずかずつであっても、子どもたちは日々成長しています。それは時に、目に見えたり、見えなかつたりしますが、私たち大人は、子どもたちが見せてくれる成長のふとした瞬間を見逃さず、認め、褒め、一緒に喜び合える存在であり続けたい、そう思います。

## 3月の主な行事

- 2日（水）6年生を送る会
  - 3日（木）外国語（支援員）  
2年生：バースデープロジェクト⑤
  - 4日（金）児童総会⑤、クラブ⑥
  - 10日（木）外国語（ALT）、SC訪問日（PM）
  - 17日（木）外国語（支援員）、PTA監査会
  - 18日（金）大掃除、卒業式前日準備
  - 19日（土）卒業証書授与式
  - 22日（火）振替休業日、ラブック号
  - 24日（木）外国語（ALT）、修了式、離任式  
給食終了、下校14：15
  - 25日（金）学年末休業開始
- ★令和4年度 1学期始業式：4月8日（金）



### 【お知らせ】

学校だよりは美川小学校のホームページでもご覧いただけます。写真もカラーで見ることができますので、ぜひご覧ください。